

# 令和4年度 第1回総合教育会議議事概要

令和4年5月26日（木）に令和4年度 第1回総合教育会議が開催されました。

第1回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

## 令和4年度 第1回福知山市総合教育会議 議事概要

日 時 令和4年5月26日(木)

午前10時30分～

場 所 市役所6階 601会議室

### ■出席者(敬称略)

教育長 廣田 康男

教育委員 塩見 佳扶子、和田 大顕、加藤 由美、織田 信夫

市長 大橋 一夫

教育部長、教育委員会事務局理事、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課担当課長、生涯学習課長、学校給食センター所長、図書館長、まちづくり推進課長、市長公室長、経営戦略課長

### ■開会 大橋市長挨拶

今日の私たちを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の脅威に加えて、地球温暖化の影響による自然災害、急速に進む少子高齢化・人口減少、急激な情報技術の進歩に伴う社会経済環境や価値観の変化など、今後ますます多様化・複雑化することが予想される。これらの社会的課題を解決しつつ、今後の福知山市を築いていくためには、行政だけで考えるのではなく、市民の皆様と、ともに考え、ともに地域課題を解決していくことがとても大切であると考えている。

地域公民館は、これまでも地域住民のために生涯学習活動や社会教育を推進する拠点として、中心的な役割を果たしてきた。今後はさらに、地域福祉や住民自治、また避難所など、多機能・複合型の地域コミュニティの拠点施設としての役割も大きな期待が寄せられるところであり、令和4年4月には新たに整備した北陵地域公民館に、地域住民センターとしての役割も備わったところである。

本日の会議では、「これからの社会における地域公民館のあり方」について、協議をお願いしたい。大きく変わりゆく社会環境の中で、地域のみなさまが抱える課題や多様化するニーズに対応するための活動拠点の場として期待される地域公民館について、取組事項などのご報告やご紹介を交えながら意見交換をさせていただきたい。

### ■協議事項

意見交換

テーマ「これからの社会における地域公民館のあり方について」

#### 市長

「まちづくり構想 福知山」を昨年度に策定し、本年4月から新たにスタートした。今までの総合計画は、行政がつくり、行政が取り組むことが多かったが、今回は策定の段階から市民懇談会を開催し、市民の皆様から様々な提案をいただきながら作成した。その経過から、行政が取り組むこと、市民の皆様に取り組んでいただくこと、それぞれを構想としてまとめている。地域ごとにそれぞれの事情や厳しい状況があろうとは思いますが、一方で市民の皆様が

主体となったまちづくりに向け、住民活動等が活発になっていくことに期待しているところである。その市民活動・住民活動を支えるものの一つが生涯学習や社会教育であり、その重要性について、教育大綱策定時にも教育委員の皆様から多数ご意見をいただいたところである。

令和2年の「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」を見ると、学校教育・教育自体、社会が大きく変化していく中でそれに対応していかなければならない一方で、生涯学習・社会教育の面でもそこが担っていくものが社会の変化の中で大きく変わってきている面があると思う。端的に言えば、教室方式で講座を行うことも大事であるが、そこから一步進んでみんなで議論しながら何かをつくっていく、何かの活動に結び付けていくような実践的な取組が必要である。実践的なものとして求めていくものは何なのかというと、単に学びだけではなく、地域の活動、福祉・健康・産業等の面も含め、地域の活性化に結びつくものに繋がるという認識が生涯学習にこれから求められていくのでは、と文科省でも審議会でも議論されているところである。

また文科省で、「命を守る生涯教育・社会教育」ということが言われている。例えば防災教育については、地域の皆さんも外でしっかり防災を学んでいくことは必要だろうし、その公民館が防災の拠点として機能していくのではという議論もある。こういうことを踏まえると、社会の変化の中で学校教育も大きく変わっていく部分もある。もちろん、今までやってきたことをしっかり守っていかなければならない、ベースになるものがあっても変わっていかなければならないこともある。生涯学習・社会教育でも、今まで守ってきたものをきちんとやりながらも、多様化するニーズもふまえて、実践的なものに結びつけつつ、地域の活性化に結びつくようなものになっていかなければならないと思う。その中で、しっかりと公民館機能の強化や充実をはかっていきたいという思いで今年度の取組を始めさせていただいているところである。北陵地域公民館もそうだが、それぞれの地域で特色・違いがある。それをしっかりと踏まえて取り組んでいかなければならないし、住民の皆さんの学びや活動が進めばよいと思っている。今後も市としてこのところをフォローアップしていきたいと思っている。

## 生涯学習課 まちづくり推進課より、地域公民館の取組について資料に沿って説明

### **市長**

これから公民館が果たす役割は大変重要であると思っている。生涯学習・社会教育というのは教育だけではなく、住民の皆さんの福祉・健康・産業の振興・地域活性化・防災も含めつつながっていくものと考えており、「地域住民センター」を北陵地域でスタートさせていただいた。そこでは週1回、地域包括支援センターも出張相談にうかがうようにしている。そういう地域公民館であるので、これから地域住民の皆さんの自主的な活動の場や拠点として大変期待をしている。ここで、委員の皆様のご意見をお願いしたい。

## 塩見委員

今年度「まちづくり構想 福知山」がスタートした。これは20年後に向けた羅針盤であり、20年後には本市の人口は7万人を下回り、その構成は年少人口と生産年齢人口が著しく減少し、後期高齢者が顕著に増加する見込みとなっていた。その時代に誰一人とりこぼすことなく幸せを実感しながら生きていけるまちであり、都市間競争を勝ち抜き、発展していくための様々な施策の中で今回のテーマはポイントの一つだと思った。

地域公民館活動について、現在は各館に館長・主事がいる。業務内容は貸館業務・講座の開設・施設管理等、多岐にわたっている。学びの場の提供は大切な役割である。しかし、更なる活動内容の充実を図るには、地域の課題・社会課題等をしっかり取り上げ、展開していくことが大事である。私は、公民館活動を充実・発展させるためには、その活動を通して人づくり・繋がりづくり・地域づくりに中核的な役割を果たすコーディネーター役の人材の育成および確保が大切だと思う。それぞれの地域の実態に応じた課題の掘り起こしをし、その課題の活動の展開にのせていくことができ、専門的な知識と経験を持っており、各館に赴き、タイムリーに指導や支援のできる人材である。これからの地域公民館は、地域住民センターとしての役割が大きくなる。地域住民の活動の拠点、様々な団体・個人が相互に連携し合い、地域の課題を掘り起こし、学びあい、活動を展開していく場である。そのスムーズな展開のためにも、経験豊かなコーディネーター役は必要だと思う。

さらに、住民センターは情報センターの役割もあると思う。【基本政策1】にもあった、福知山公立大学の学生の情報力・企画力をこの公民館活動にもさらに活用できたらと思う。学生が様々なかたちでまちおこしの企画運営をしている記事をよく目にする。若いパワーがあり、専門的な知識を活用できれば、地域防災をはじめ様々な地域課題の解決に向け、その活動力を高められ、よりの確な活動に繋げられるのではと思う。

最後に、自主公民館と言われる26の地区公民館の中には様々な地域事情から役員の選出に苦慮され、非常に厳しい現状に立たれているところがある。地区公民館は地域公民館の活動を大きく支えている団体でもある。そのような現状を踏まえ、地区公民館がスムーズに活動できるよう、支援の目を向けることも地域公民館の更なる充実につながっていくと思われる。今年度からは広く市民が活用できるように午前中開館が実施された。また、今後数年で改修が進められ、機能・利便性がグレードアップしていく。この機会にコーディネーターを育成し、地域の中に活動できる人材の裾野を広げていくことが必要だと思う。経験のある専門職の配置は有効であると思う。広く人材を求めるのもいかがだろうか。

## 市長

公民館という身近な場所で学び、利便性も含め、皆さんに受け止めてもらえるような場になることも大事であり、福知山公立大学の学生にも協力していただいているところである。今後はオンラインで全国のいろんなことを知ってもらえるようにWi-Fi環境の整備も進め

ているので、そういう側面で広く外とつながり、知識も得ていけるような取組を考えていたらと思う。言われたようにコーディネーターの育成あるいはそういった人材についても検討していければと思う。

#### 和田委員

プログラミング教育・防災教育・一人一台のタブレット、義務教育と大学を結んだ連携教育等、市長の時代を先取りした攻めの取組に驚きと敬意・感謝を申し上げます。今日の会議の「これからの社会における公民館のあり方」についても、私たちが意見を述べる前にすでに考えを行動に移されている姿を見せていただいている。私は、周辺部の地域公民館・地区公民館を視野に入れて意見を述べさせていただく。

平成18年、大江・三和・夜久野の旧三町が福知山市への編入合併の話が出始めたころ、三町は先々を見据え、役場を新築・新設した。コンセプトは「高齢になった私が、自分で解決できない問題ができた時、なんとかなる施設をつくりたい」であったと思う。支所機能はもちろん、公民館は単なる貸館的施設ではなく、地域住民の日常生活に密着した問題を総合的に解決していく役割を担った施設を考えたいと思いたった。住民にとって欠かすことのできない行政サービスはもちろんのこと、過疎・高齢化が現実の問題となったとしても、「クオリティーオブライフ」、いわゆる「生活の質」「生きがい」「満足度」をもち続けたいという住民の願いがそこにあったと覚えている。夜久野の場合は、支所と公民館を同一施設内に置くことで、住民のハード面とソフト面の相互乗り入れができ、そこに生活する人の悩み解決に、住民も立ち向かわなければならぬが、それを手助けする行政・公民館が役割分担をしながら、連携・協力・協働していくことをめざした。これからの公民館活動に求められているのは、少子高齢化・人口減少の状況だけでなく、地域課題を踏まえ、地域と地域の人々が深く関わりながら、その地で暮らすクオリティーオブライフを高め、地域住民が郷土に対する愛情を育むことでコミュニティの希薄化を防ぎ、住民の包括的な助け合いの地域づくりが生まれるのでは、と思っている。

近年、社会教育・公民館事業は学校教育化しつつあると言われている。講座主義の風潮が、誰かからサービスを受け、終わっていくといった取組になりつつあるのではと懸念するところであるが、本来、その地域や人が持っている可能性をつなぐ取組、いつ起こるかも知れない災害の問題や福祉の問題を事業として組み込みながら、住民同士の互いの信頼を高めあいつつ、助け合うコミュニティをつくっていくことが求められていると思う。住民同士の相互扶助を生み出す場・住民自治の実践の場として、これから公民館が果たしていく役割は大きいと思う。公民館は地域の住民から頼りになる、そんな公民館活動をめざさなければいけない、という思いを持っている。

#### 市長

「何かあれば公民館へ行こう」「公民館でこういう取組がある」というようなことが地域

住民の皆さんの日常になっていくことが大事だと思う。講座だけではなく、公民館を使って何かに取り組む、逆に公民館はこういうことを行ってくれないかといった動きが出てくるような場所になっていくのが大事である。

#### 加藤委員

私も地域の公民館・自治会等で何か活動ができればという気持ちを持っている。昔からある地域には住んでおらず、周辺部にある集合地域に住んでいるので、なかなか連れ立って公民館へ行こうということになりにくい状況にある。体は元気なので、車でいろんな公民館へ出向いて講座等へ行ってみたいと思っているところであるが、最近はやや近く夜久野町の図書館へ行きだしたところである。

住んでいる地域の地区公民館に4つのサークルがあり、その一つに文庫活動がある。それに一度参加したが、本を読むというよりは、飲み物を片手に集ってお話をするという状況が現実であった。高齢化・役員の固定化という現状がある中で、説明いただいた「活力あるコミュニティづくり」「地域住民センター」「地域サロン」「コミュニティ・カフェ」等、そういう場が必要な高齢化が迫ってきている気がしている。そういった面でも非常に期待したいところだが、他の委員もおっしゃっていたように、住民の思いを束ねたり、地域住民が立ち立ちをしたりしていくには、なかなかの過程が必要であると思う。いろんな講座・教室を見ていると、同じような中身のパターンで開催されている。それを館長・主事が考えられているのか、実際に何をしたらいいだろうという相談を受けたことがある。そういう悩みは各館にあるのだろうと思う。地域が中心になって課題を発掘し、地域のために具体的な講座を開いていくには、コーディネートが必要であり、人・時間・場所・具体的な支援もひとつひとつの地域に必要なことだと思っている。

#### 市長

ルーティン化・定型化した講座ばかりが並んでいて地域住民の希望にあった内容になっていない可能性もある。そういう意味で、地域のニーズや要望をコーディネートできるような人材が必要であると思う。その人材が、どのようなかたちで公民館の中で、地域の中で生まれてくるか、それをどうバックアップしていくかが大事なことだと思う。

建物だけを改修しても、中身の問題をどうするかが一番大事な話であるので、これから中身の充実を進めていきたい。

#### 織田委員

福知山市教育大綱を読み直し、基本方針の3つの柱に基づいて考えた時、生涯学習・社会教育の拠点という意味では公民館の存在は非常に大きな役割を果たしていると考えられる。個人的には、私が住む地域には地域公民館がない。一市民として考えた時、公民館の行事・事業に参画するには、意識的に情報収集をしなければならないという印象がある。そこを地域

の方々にもどのように働きかけて改善していけるのかが一つの課題ではないかと思っている。ただ、子どもから高齢者まで幅広い世代の方々にも、その存在や事業を知っていただく機会を増やしながら取り組んでいかなければならない。先日、先進的な事例がないか調べたところ、いろんな公民館活動をされている自治体があることを初めて知った。そのことを考えれば、今、福知山市内の公民館で対応されている講座・研修会等は、それはそれで必要なことであるとは思いますが、お膳立てでやる講座ではなく、もっと時機にあったテーマを持ち、地域の意見を組み入れながら、人が集っていける場を前提に作っていく必要があるのではと思う。行政が主体でやるのではなく、市民が率先して対応できるような仕組みづくりも必要ではと思う。

昨今、防災害等の課題があるが、地域独特の課題があるはずで、一概的に全市の地域公民館に考えるテーマを設けるのではなく、その地域ごとの過去の経験・最新の情報をふまえて意見交換できる場も必要だと思う。そうした取組が各地域公民館ごとの活動になるのではなく、行政サイドもリンクしながらネットワーク化を進めていき、地域ごとの課題や共通した課題をあげ、もっと連携して取り組もうという働きかけも必要ではないかと思う。その中で、自己満足的な活動をやるのではなく、福知山の中から全国に向け、先進的な活動内容を発信できたらよい。毎年、全国で優良公民館表彰が実施されていると聞く。取り組んでいる内容が評価・表彰されるような、モチベーションに関わってくるような取組にも繋げていければと考える。

今日の資料の中で、明治安田生命が取り組んでいる「公民館元気プロジェクト」があるが、予算面では行政サイドの予算の中でやりくりするのは非常に厳しい面もあると思うので、いろんな団体に呼び掛けて応援してもらうことも必要なのではないかと思う。そのためにも「まちづくり構想 福知山」の中で、ペルソナ（仮想的な人物像）のエピソードがあるように、それぞれの人物にいろんな課題があるはずなので、課題やテーマを掘り下げて具体的に、見える化できるような取組を地域公民館の活動と絡めて取り組んでいければと思う。

この1、2年のコロナ禍で、我々の事業活動も時流に合わせて変わらなければならない状況になっていたのも、それぞれの地域で変わっていかねばならない実情もあるし、特に高齢化ということで若手のリーダーを養成できるような機会等を多く作っていかねばならない。その中で地域公民館の行事、開催運営に参画してくれる人物が増えてくると思うので、行政か市民が積極的にやるのかという面もあるだろうが、そのあたりも含めて考えていかなければならない。

## 市長

行政も市民も一緒になって考えないといけないと思う。公民館の午前中開館を開始したほか、公立大学の学生の協力により高齢者を対象としたスマートフォン教室を実施し、募集はすぐにいっぱいになった。その時のニーズや先の社会を見た時に共通してみなさんが感じておられることもあると思うので、そういったところは行政でやっていかなければなら

ない。一方で地域ごとの課題は違うと思われる。ただ、この地区だけの課題かというわけではなく、市内の中に同じ課題を抱えていなくても全国で見れば同じ課題を抱えているところがあると思うので、広く他の地域を見ていくということも大事だと思う。見るための資料や材料を自ら探すのは大変であろうから、そこは行政がしっかりバックアップして、そこから地域住民の皆さんが話し合い、取り組んでいくことが大事だと思う。

もう一つは、「いろいろ一緒になってやる」というのは、行政とではなく、いろんな知恵・ノウハウを持っておられる市内の事業所・民間のみなさんの話を聞いてもらい、そこで一緒になって学び、実践していくことができるようになればよいのではと思う。

#### **和田委員**

短期・中期の目標、私どもが申し上げた長期の目標に向けて一つ一つ進める上で、「人を集めること」から大変である。理想をたくさん言い、申し訳なかったが、頑張っていたきたいと思う。

#### **市長**

総合教育会議の議事については以上となる。引き続き、理事者同士の協議や市長部局と教育委員会事務局相互と連携して進めてきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

#### **■閉会 廣田教育長挨拶**

本日のテーマは、これからの社会における地域公民館のあり方ということで、今後のまちづくりに向けても重要なテーマであった。取組を進めても、すぐ成果が出るものではないだけに難しい面もあると思う。

今日の感想として、一つ目は、地域公民館は身近な存在・賑わう場となることが大事だと思う。その中で様々な事業・取組を行っているが、今後、家庭教育支援という視点も大切と感じている。午前中の会館により親子が利用し、地域公民館の存在を初めて知ったという感想があったことも聞いている。幅広い世代に地域公民館を知ってもらい、活用し、担い手となっていただく上では大切なことだと感じている。

二つ目は、各地域公民館が地域住民センター化し、課題解決に向けて取り組む中、様々な課題が出てくる。教育委員会が地域公民館を所管しているが、多機能になるからこそ各部局と横断的な連携をし、支え、ともに歩んでいくことをより一層大切にしていかなければならないと感じている。

最後に、新たな学習指導要領の中で、「社会との連携・協働」についても示され、学びの充実を図っていく上で地域公民館・地域住民センター化された拠点施設というのは大変重要な役割を果たす。互いに連携し、子どもたちにとって良い施設となればと思っている。今後ともよろしくお願ひしたい。

以上